

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年8月18日

【評価実施概要】

事業所番号	270102197		
法人名	株式会社 青森老人福祉プラザ		
事業所名	グループホーム三内丸山		
所在地 (電話番号)	〒038-0031 青森県青森市三内字沢部305番地4 (電話) 017-783-4748		
評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20-30 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	平成21年7月2日	評価確定日	平成21年8月18日

【情報提供票より】(平成 21年 6月 10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 17年 9月 20日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤 7人, 非常勤 9人, 常勤換算	14.6 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分		

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	冬期4,000 円
敷金	有() 円 (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	(有) 81,990 円 無	有りの場合 償却の有無	有(無)
食材料費	朝食	400 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,200 円		

(4) 利用者の概要(6月 10日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名
要介護3	4 名	要介護4	4 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢 平均	79 歳	最低	68 歳
		最高	90 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	あおもり協立病院
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設は小高い場所に位置し、建物は一般家庭と区別がつかない外観で町並みに違和感なく建てられている。施設内の共有スペースを広く取っているほか、入居者の家族宿泊施設、会議室も設けられ心と和む雰囲気づくりがなされ、ゆったりと過ごす事ができている。元気な利用者が多く、職員の関わりの中で二棟対抗のスポーツ大会等月1回以上のイベントが自由参加で活発に行われ、悪天候の日以外は玄関の戸をオープンにし、各自自由な生活を送られている。町内の飛び込みの相談にも親身になって応じ、地域との関係も良好で、利用者・家族・職員が一体となり地域に溶け込んでいる施設となっている。

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目としての災害対策については消防署と連携し通報訓練、さまざまな場面を想定し避難訓練を行い、地域とも協力体制が出来ている。重度化や終末期に向けた方針の共有については、話し合いの場を設けるに留まっている。管理者自身必要性を理解し、支援していく考えがある為具体策をマニュアル化することに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>職員は一ヶ月に一回自己評価票を作成し、介護サービスの質の向上に努めている。今回の自己評価の作成に関しても、管理者・職員が話し合い記入、要改善点については管理者、全職員で意見を出し合いサービスの質の向上に努めている。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>二ヶ月に一回定期的に開催され、利用者・家族・市職員・包括支援センター・他グループホーム職員等の参加により、毎月の近況報告や活発な意見交換、会議を利用し地域への災害訓練に関する呼びかけを行ったり、地域との交流も活発に行われている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10、11)</p> <p>家族の面会時や月一回の広報で入居者の近況報告、職員の異動状況、金銭管理報告を行ったり、家族より送られてくる報告、面会時の要望から意見の吸い上げを行っている。今後も何でも意見を出しあえる関係を継続していく事を希望します。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の一員として、新年会・他イベントには利用者と一緒に出かけたり、地区のネプタが回り道し、施設前を運行してくれたりしている。児童館の子供達、中学生との相互交流、又町内の飛び込みの相談にも親身になって応じ、専門機関に繋げる等地域貢献している。今後も継続する事を期待したい。</p>

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	全職員で話し合い「地域の一員としてさまざまな活動に参加する」といった内容から地域密着の役割を盛り込んだ理念になっている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送りで理念の振り返りを促したり、廊下、玄関など目に入る場所に掲示して意識を高めている。		
2. 地域との支えあい					
3	4	隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域の一員として、新年会など地域の催し物には利用者と一緒に出かけよう心がけている。施設の納涼祭に参加頂けるように地区の回覧や近くの掲示板で呼びかけを行うことで、地区や児童館の子供達、中学生との相互交流も持っている。更に町内の飛びこみの相談にも親身になって応じ、専門機関に繋ぐなどの配慮をし地域に貢献している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一人一人が自己評価に取り組み全職員で行っている。又外部評価の結果、期待された内容に対し積極的に取り組まれ、職員の意識を高める姿勢が感じられる。		
5	6	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市職員、地域包括支援センター、地区会長、民生委員、利用者、家族、他グループホームの職員等が参加し会議の内容の密度も濃く活発な意見交換がなされ、そこでの意見がサービスの向上に反映されている。		
6	7	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	制度や基準の確認、疑問などがあれば早急に市に向き、担当者へ積極的に関わりを持ち、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
7	8	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	資料や研修などを通し学び、会議で報告や勉強会を設けている。更に提示をしながら理解を深めている。又実際に成年後見制度を活用している利用者もいる為、必要時支援できる体制にある。		
8	9	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加しマニュアルを作成、全職員に申し送りや回覧で周知をはかっている。又日々気になる言動や対応に気づいた時は、お互いに声掛けしながら注意を払っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制					
9	10	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>施設の見学に来られた時や契約時に利用者と家族に説明をしている。又契約を変更した際は十分に説明し理解頂いた上で契約を結んでいる。</p>		
10	12	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>面会時や月1回の広報で近況報告、異動状況、受診状況などを報告されている。金銭管理については出納帳等原本を一緒に送り確認してもらっている。</p>		
11	13	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情箱を設置している。また、毎月送付している状況報告を話題に、家族面会時更に意見を引き出し、要望のあるときはすぐ対応できるように配慮している。</p>		
12	16	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>A棟B棟合同のレクリエーションを日ごろから設け、職員や利用者間の交流を深めることで異動があっても混乱しないように配慮されている。又利用者の精神的な負担にならないように最小限の範囲での異動に留めている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や個人研修について管理者自身、職員が積極的に参加するよう促し、職員が希望の際は公休調整し参加しやすい環境を作り上げている。更に、報告会や勉強会を設け職員全体で共有している。		
14	18	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県、市などのグループホーム協会に参加したり、近隣の同業者同士で認知症を考える会を立ち上げ、定期的に話し合う機会を設けることで連携を図り、サービスの質の向上に取り組んでいる。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホーム内を見学して頂いている。又、要望があれば慣れ親しんだタンスや仏壇を持ち込み入居できるようになっている。部屋の空間一杯に持ち込んだ馴染みの家具があることで安心して過ごしている人もいる。希望があれば模様替えも出来る体制にある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、利用者が悩んでいた、困っている時も家族のように真剣に向き合うように日々心がけている。また、味付けの仕方など利用者から教えてもらったり、利用者が得意な習字を職員や他の利用者と一緒に楽しんだりし喜怒哀楽を共に過ごしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が楽しく暮らせることをモットーに日々の暮らしの中で行動、言動を観察し生活に対して意思確認をしながら意向の把握に努めている。困難な場合でも2ユニット合同の話し合いの場を設け、意向引き出しに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃の状況をもとに利用者や家族の面談のあと、職員の観察や気づきを話し合う場を設けながら介護計画が作成されており、一人一人の意向や要望を取り入れている。		
19	34	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。又毎月欠かさず評価することで状況の変化に早めに気づき、変化時は随時計画の見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	美容院や病院への外出支援を本人、家族の状況に合わせできるかぎり支援している。家族宿泊施設が設けられており、いつでも宿泊できるように配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>なじみのかかりつけ医に受診できるよう配慮し必要に応じて送迎の支援もしている。</p>		
22	44	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>現在は利用者、家族から重度化や終末期の要望はなく、話し合いの場を設けるに留まっている。管理者自身必要性を理解し、支援して行く考えはあるが具体的な結論は出していない。</p>		<p>管理者自身、重度化や終末期のあり方について必要性を理解されている事から具体策をマニュアル化する事を希望したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	47	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>利用者の自尊心や誇りを傷つけないように常に注意を払い事前に対処している。個人情報に関しても同意を頂きながら取り扱い、書類に関しては施錠をして管理している。問い合わせに対しても電話では受け付けていない。</p>		
24	49	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>一人一人のペースにあった対応を行い、レクリエーション参加等、声は掛けるが無理強いくことなく楽しんで生活して頂けるよう希望に沿った支援をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	51	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>職員と利用者が一緒になり下ごしらえをしたり、食事の準備や片付け、配膳が行われている。食事も職員と一緒にされ、会話が弾み和やかな雰囲気づくりがなされている。又それぞれのペースで食べられるよう配慮されている。</p>		
26	54	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>入浴日は決めているが希望があればいつでも入浴できる体制ができている。夏場は屋外での足浴を楽しんでもらうなどの工夫もしている。</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>食事の準備、片付け、花の水かけなどそれぞれが得意な分野で役割を持ち、自然に行う習慣が出来ている。又暮らしの知恵や特技の習字、踊りなど利用者が楽しめることを見出し生活の場面で出来るよう支援している。</p>		
28	58	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	<p>年1回遠出や日々の買い物や散歩、行きつけの美容院への外出支援など職員に支障がない限り随時対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアル作成時に研修に参加し、全職員が資料を閲覧できるよう周知を図るとともに、文書だけで理解できない職員へその都度ミーティングで理解できるように取り組んでいる。		
30	63	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関は施錠はされてない。帰宅願望のある利用者は会話で気分を逸らしたり、本人が納得いくまでホール内を歩くようにしたり、さりげなく見守り声掛けすることで居室、玄関に施錠しない取り組みが出来ている。		
31	68	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署と連携し通報訓練を行ったり、地震、火災などさまざまな場面を想定し、係りを決めて実際に誘導や避難訓練を行っている。地震の時は近くの温泉の敷地に避難することになっており、地域には運営推進会議を通じて協力体制が確立されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が一週間の献立を考え、最終的には知り合いの栄養士に確認してもらい、専門的見地からアドバイスを受け作成されている。食事量、水分量は個人記録表に毎日記録し確認している。		
33	75	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	必要となる各種のマニュアルを整備し、新しい情報が入ると話し合う機会を設けて周知されている。また、玄関やトイレ前などに手指消毒器を設置し感染防止に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
34	78	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレ前の共用スペースを広く取っているほかホール内からの外の景色も見晴らしがよく、面会者の家族宿泊室や会議室も設けられ心穏やかな雰囲気作りがされている。		
35	80	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	仏壇や使い慣れたタンス等を自由に持ち込んだり、利用者の希望があれば部屋の模様替えの受け入れもしながら、居心地よく過ごせるよう配慮されている。		

 は、重点項目。